

全国で 認められた 発明と研究



滑車などを用いて上下に移動する物干し器を作り、「第68回全日本学生児童発明くふう展」で文部科学大臣賞を受賞した倉知小学校2年の坂井玲音君と、「第46回全国児童才能コンテスト」科学部門

で、日本PTA全国協議会会長賞を受賞した同校2年の山田佑哉君、全国連合小学校長会会長賞を受賞した同校3年の臼井麻衣さんが3月2日、市役所を訪れ、尾藤市長に受賞の喜びを話しました。

あんな事、こんな事



心のこもった表札を

長い間、正門の表札がない状態が続いていた旭ヶ丘小学校で3月12日、関商工高等学校の生徒から、小学校名が入った新しい表札が贈られました。製作を手がけたのは機械科の梅田吉秀君(2年)と渡辺友浩君(1年)。2人は旭ヶ丘小の卒業生でもあります。正門に新しい表札が付き、児童らはとても喜んでいました。

歌って踊った童話の世界

童話の世界の婚活騒動を描いたオリジナルミュージカル「シンデレラ・ワンダーランド」の公演がわかさ・プラザでありました。このミュージカルは一般公募で集まった関市や飛騨地域の市民の皆さんなど約280人が参加する市民参加型のミュージカルで、秋から半年間、20回以上の練習を重ねてきました。本番では熱のこもった踊りや歌を披露し、観客を魅了していました。





日本刀の魅力を紹介

関鍛冶伝承館で日本刀入門講座が開かれ、県内外から17人が受講しました。この講座は3日間行われ、1日目は関伝日本刀鍛錬技術保存会愛刀会、2日目は同刀匠会、3日目は同技能会が、それぞれ日本刀の歴史や魅力について説明しました。2日目は古式日本刀鍛錬と刀剣研磨外装技術の一般公開日にあたり、受講生は実演の様子を熱心に見学していました。

地域の防災力を高めるには

わかさ・プラザで3月7日、市民防災シンポジウムが開催されました。防災に関する正しい知識や災害時の適切な対応を身につけることを目的に、岐阜大学との連携で開催してきた「市民防災講座」の第6回目として行われました。岐阜大学教授の高木朗義さんをコーディネーターに迎え、尾藤市長をはじめ防災や地域の関係者、学識者がそれぞれの立場で関市の地域防災力の現状と展望について話し合いました。



伝統文化を支え続けて

平成21年度岐阜県伝統文化継承功績者顕彰を受賞した松田幸彦さん(下有知)が3月10日、受賞の喜びを尾藤市長に報告しました。松田さんは昭和31年に下有知若宮社獅子舞保存会に加入して以来、獅子舞の保存、伝承、振興に尽力され、平成10年からは保存会の会長も務めています。会員は現在30人。神社に獅子舞を奉納したり、地元の子どもたちに獅子舞を指導したりしています。

みんなで楽しく玉みそ作り

3月9日、武儀地域で古くから保存食として親しまれている「玉みそ」作りに武儀西小学校3年生が挑戦しました。地元の伝統文化を学ぶため、3年前から行っています。児童らは校内の畑で育てた大豆2キロを調理。蒸した大豆をつぶして丸め、中央に穴を開けてドーナツ形にします。作った玉みそは3月中旬まで吊るした後、7カ月間しょうゆと麴こうじに漬けて味付けします。



こぼれ話



「倉知まつり」のみこしの上に飾る「くじゃく」を作っている森鈴一さんのお宅へ行ってきました。昭和22年に森さんのおじいさんがくじゃく作りを引き継いでから、親子3代にわたって森さんが行っています。雌雄1対、全部で43本ある羽根を毎年点検し、傷んでいる羽根を作り直します。年明けに地元の山から竹を切り出し、羽根の軸になるよう細く加工し、朱や緑の色をつけた厚紙を張って3月中旬までに完成させます。

羽根を作るのに森さんが一番気をつけていることは竹のしなり具合。厚紙を張ったときの重さを計算して、竹がしなり過ぎないように、先へ向かって細く削っていく長年の勘と技術はまさに職人技です。「水辺の竹より山の竹がいいとか、親父からいろいろ教わった」と話す森さん。作業の合間、庭のベンチで一服しながら、お父さんと一緒に竹を取りに行った話などを伺うことができました。今年の倉知まつりは4月18日。祭り場になっている関自動車学校の教習場で2体の「くじゃく」が出会います。